



Sustainability
Progress Report
2024





Contents

Introduction

3

Impact

4–8

Innovation

9–14

Integrity

15–17

Introduction

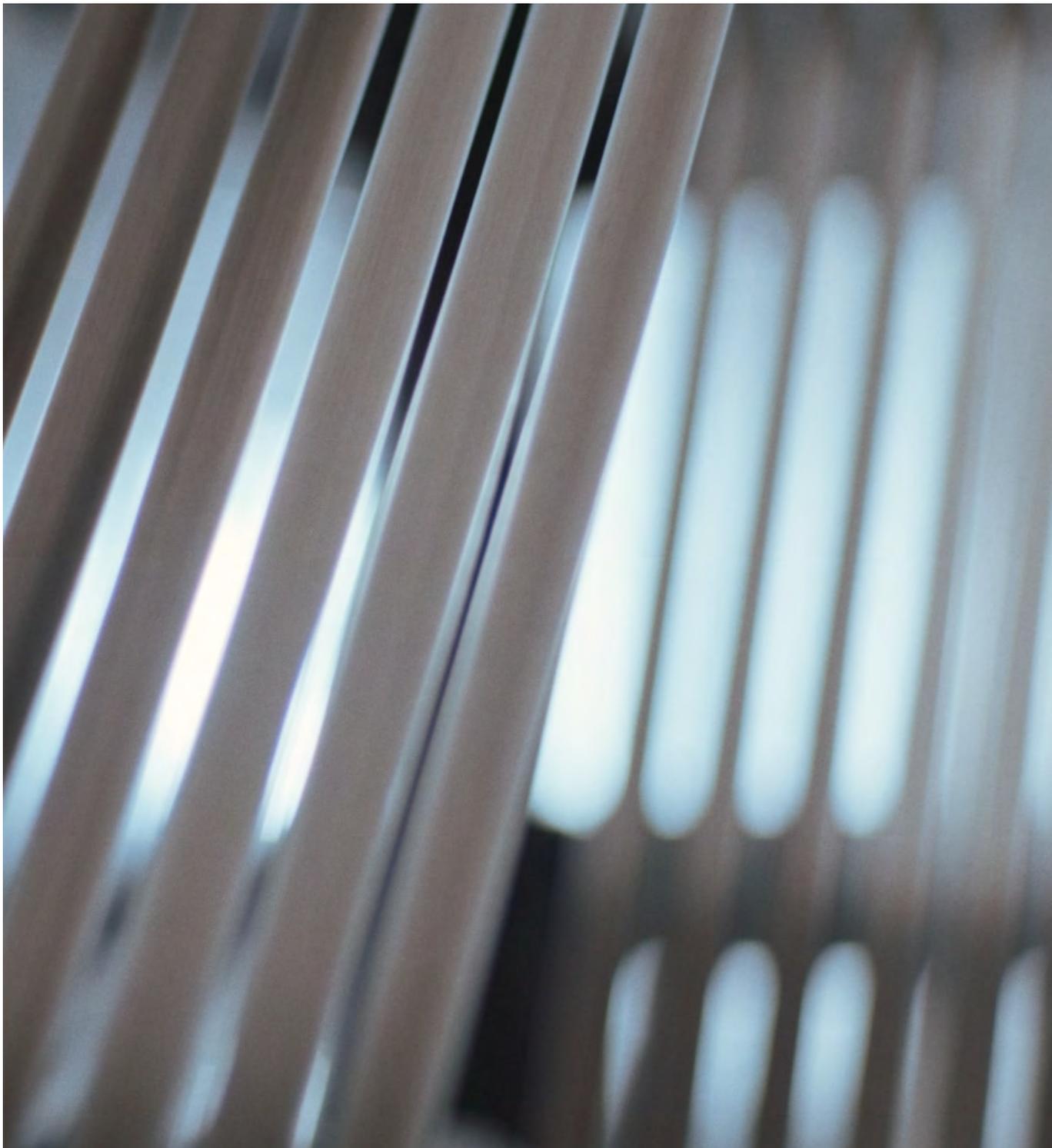
Impact = Innovation + Integrity

持続可能性はSpiberのミッションの中核です。資源には限りがある現状の中で、私たちは社会を変革させるほどの大きなインパクトを与え得る、新素材の開発に取り組んでいます。

Spiberは2022年に最初の「[サステナビリティ・インパクト・レポート](#)」を作成しました。このレポートの中では、ポジティブなインパクトを与える可能性を最大限に引き出すための戦略を概説し、私たちが実現を目指し前進するための志と目標を定義しています。そして、これらの目標に対する進捗を毎年「サステナビリティ進捗レポート」として公開しており、本レポートは2023年版に続く2回目の報告書です。私たちのビジネスおよびステークホルダーの皆さまにとって最も重点的な課題を網羅するための骨子として、「インパクト = イノベーション + インテグリティ」というコンセプトを策定しています。

本レポートに含まれるデータは、特に注記がない限り、2023年度全体を通じた当社の活動が対象になっており、一部の活動は2024年9月まで及びます。日本にある本社および研究開発施設やタイのポリマー生産プラントで行われた活動、ADMとの戦略的パートナーシップによって準備を進めている米国のポリマー生産プラントに関する活動も含まれます。

GRI (Global Reporting Initiative、グローバル・レポートング・イニシアティブ) が定めるGRIスタンダードに基づく当社の最新の開示情報については、[こちら](#)をご覧ください。



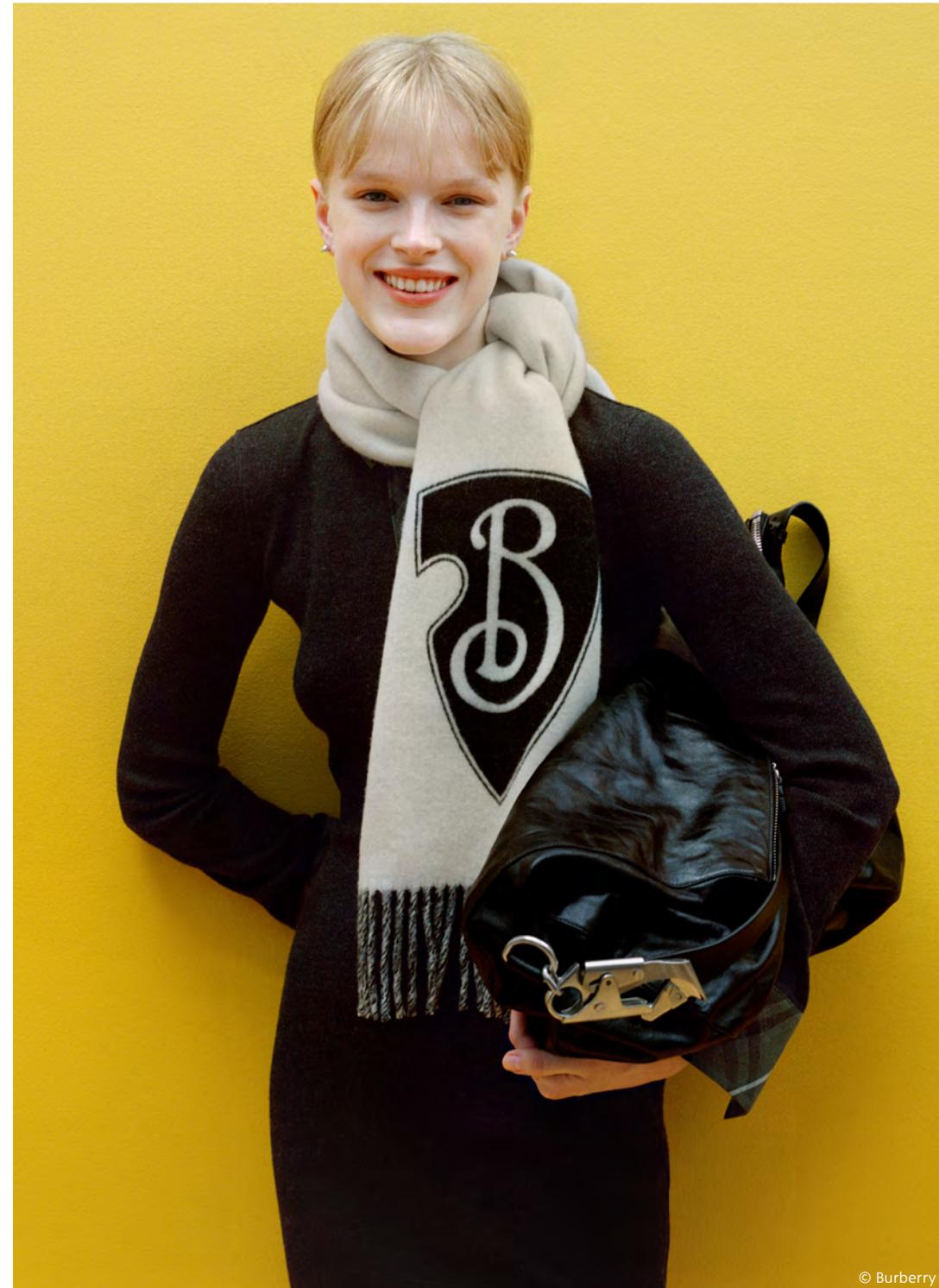
Impact

私たちは、タンパク質についてさらに理解を深め駆使することによって、より持続可能な社会への移行に貢献できるよう努めています。このような変革をもたらすために、私たちは、繊維の生産規模を拡大し、持続可能な代替テキスタイル素材を世界中のお客様に提供できるよう尽力しています。生産能力を高め、さまざまな産業で当社の素材を採用いただけるようになることで、私たちが環境や社会に与えるポジティブなインパクトを最大化できると考えています。

これまでの進捗

Brewed Protein™ 素材の採用実績の拡充

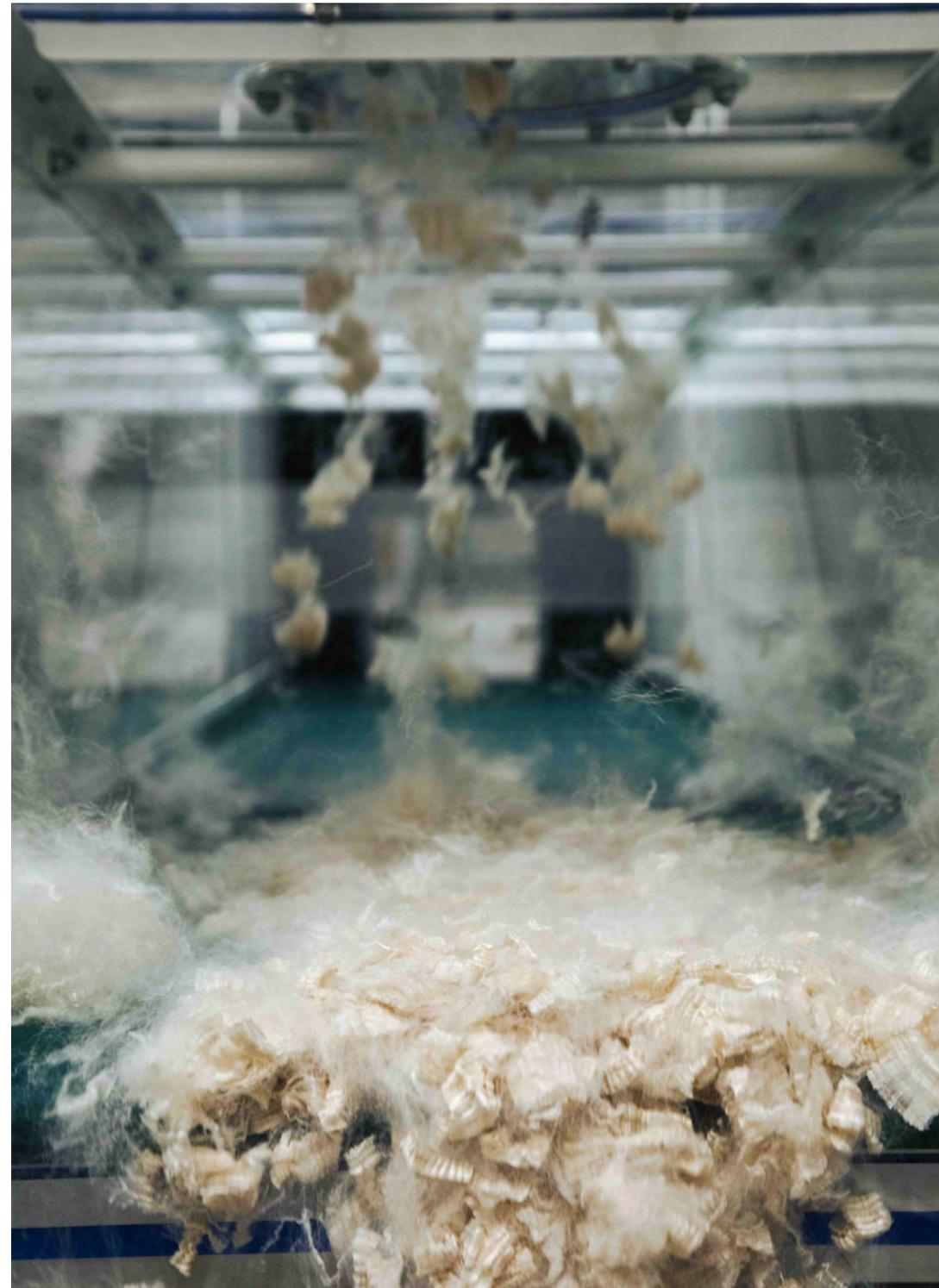
2024年9月、バーバリーよりBrewed Protein™ファイバーを使用したスカーフが世界中で発売されました。当社の素材が、伝統や文化的意義を持つラグジュアリーファッションブランドのアイコン的な製品に採用されたことを大変光栄に思っています。今後も、地球と社会へポジティブな影響を与えることができるよう、素材の普及に努めて参ります。そしてこの取り組みを支えてくださるパートナーの皆さまと共に、さらなる成長を目指してまいります。製品に関する詳細は[こちら](#)をご覧ください。



これまでの進捗

生産性の向上

タイのプラントでの生産量の拡大は順調に進んでおり、需要に応じた生産量の調整を行っています。さらに、2023年からは山形県鶴岡市の本社設備で、これまで外部業者に委託していた繊維のカットとクリンピングを自社で行うようになりました。この生産プロセスの内製化により、最適な加工条件を考慮しやすくなり、より高品質な製品を安定的に生産しながら、供給までのリードタイムを短縮することが可能になりました。



これまでの進捗

さまざまなBrewed Protein™ 素材の開発

当社の素材は、繊維用途にとどまらず、さまざまな分野で活用できる可能性を秘めています。私たちは、各用途や市場に適した素材を提供できるよう、着実に開発を進めています。

ファーオルタナティブ

研究開発を進めているBrewed Protein™ファー素材について、関係者の皆さまより高評価をいただいております。引き続き、新素材の実用に向けて開発を進めて参ります。

レザーオルタナティブ

合成繊維における高次後加工技術で定評のある小松マテーレと提携し、両社の強みを活かして新素材の開発を進めています。本パートナーシップを通じて、Brewed Protein™素材の新たな応用分野や開発領域をさらに拡大することを目指しています。

食品タンパク質

いくつかの食品タンパク質の概念実証を経て、現在は既存の生産プラットフォームを活用し生産性を検証しています。また、食品に使用する際の新たな素材として市販前承認の申請も進めています。



小松マテール株式会社からのメッセージ

「当社は創業以来徹底的に素材開発にこだわり続け、創業から80年を経過した今もその手を緩めることなくお客様に選ばれる素材を探求しております。市場のニーズが著しく変化するなか、コーポレートスローガンに“Art in Technology”を掲げるとおり、技術と感性の融合を意識した新たな付加価値の創造を目指して参りました。

現代においては「サステナブル」が地球規模で共通して取り組むべき課題とされており、当社においても持続可能な社会の共創をテーマにスパイバーと2015年より共同開発を進めております。原料に石油や動物素材を使わず、さまざまな環境課題に対する新たなソリューションとして期待される

構造タンパク質素材「Brewed Protein™（ブリュード・プロテイン™）」を開発するSpiberとの協業は、環境経営を進める当社において有望な事業となっております。当社の透湿防水膜および合成皮革の独自技術と、原料に石油や動物素材を使わず環境負荷低減への貢献が期待されるBrewed Protein™素材を融合することで、サステナブルな新素材開発の実現を目指します。」

komatsumateRe



Innovation

Spiberのビジョンは、技術革新、新たな循環システムの実現、重要なパートナーシップの構築を通じて、持続可能な素材の選択肢を拡大することです。その私たちの事業の中核にあるもの、それがイノベーションです。今後もBrewed Protein™素材をより幅広い産業で活用いただけるよう、開発を力強く進めていきます。そのイノベーションを成し遂げるためには、取り組みを前進させる優秀な人材が欠かせません。チームが潜在能力を最大限に発揮できるよう、私たちは尽力していきます。

温室効果ガスの排出とエネルギー

コミットメント

2024年までに削減計画を作成し、2029年までに排出原単位をBrewed Protein™ファイバー1kgあたりCO₂換算で10kgに削減

進捗

多岐にわたる排出削減イニシアティブの実現可能性と影響を評価するために、代表執行役が指揮をとり部門横断的なチームによるプロジェクトを立ち上げました。本プロジェクトは順調に進行しており、2024年末までに具体的なアクションプランを策定する予定です。



循環性

コミットメント

非可食原料の候補を特定

1. 各種農業廃棄物および副産物を原料として利用するためのプロセスを開発
2. 2026年までに、タイでBrewed Protein™ポリマーを生産するための原料として、年間50トン（乾燥重量）以上の糖を可食サトウキビ由来のものから非可食バイオマス由来のものに置き換える

進捗

タイの生産プラントでは、バガス（サトウキビの搾りかす）由来の糖を使用した生産試験を行い、バガスの利用可能性が確認できました。これを踏まえ、今後の量産プロセスでの活用を計画しています。この取り組みにより、私たちの持続可能な目標達成がさらに加速することを見込んでいます。本イニシアティブの詳細については、Bio Circular Materials Alliance（バイオサーキュラー・マテリアル・アライアンス）のレポートで改めてご報告いたします。



職場における多様性、衡平性、包摂

2023年には人事セクション内に正式なDEIチームを設立し、現在も、以下のDEI目標に向けて一歩ずつ着実に前進しています。

コミットメント

1. 2025年までに、Spiber グループの管理職（シニアマネージャーレベル以上）に占める女性の割合を30%以上にする
2. 管理職の主導によりSpiber グループ全体に適用される多様性、衡平性、および包摂（DEI）に関する方針を作成
3. DEI 研修の実施による社員の意識向上と、よりインクルーシブな企業文化の醸成
4. 障害を持つ社員のためのプログラムを導入し、すべての社員の採用、キャリア開発、昇進、研修、およびその他の雇用機会へのアクセスの衡平性を確保
5. 採用プロセスへのDEI 視点・起点的考え方の導入

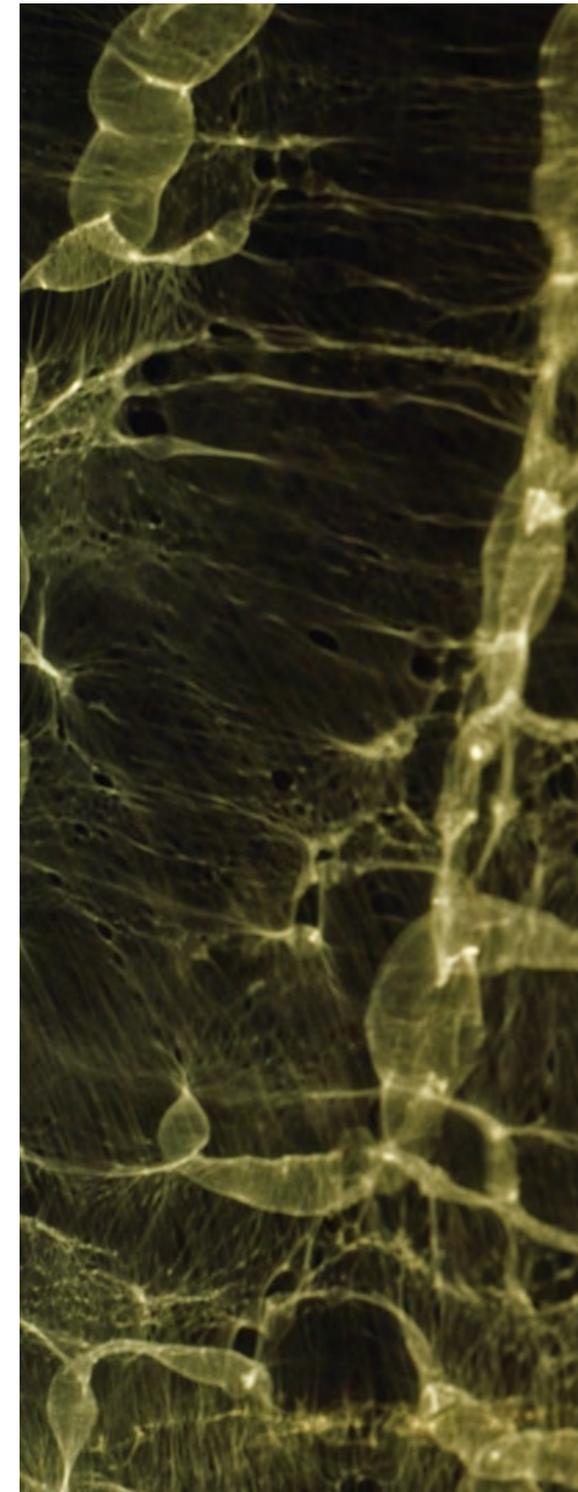
進捗

管理職層における女性の比率を高めるため、候補者リストの作成に加え、女性が男性と同様のポジションに就く際の障壁についても分析を進めています。さらに、選出された候補者が新たな役割で力を発揮できるよう、候補者およびメンター向けの研修や教育資料を提供する支援制度の導入を計画しています。

Spiberのミッションとビジョンには、多様性、衡平性、そして包摂への強いコミットメントが込められており、これらの価値観と一致したDEIに関する方針の策定は、短期・長期の両面で重要な優先事項です。本方針の作成に向けて、重要な視点を見落とすことなく、慎重かつ着実に取り組んでいます。進捗については、来年のレポートでさらに詳しく報告する予定です。

管理職層に対する研修を開始し、受講したリーダーがDEIの価値観を組織全体に広めることを目指しています。この取り組みの一環として、専門機関と連携し、受講者に対して客観的な評価を行い、2025年中に研修プログラムを本格的に実施する予定です。

DEIチームは採用チームと連携し、当社ウェブサイトの応募フォームに[包摂的な採用に関する指針](#)を掲載しました。また、障害を持つ新入社員が受けられる配慮事項を応募職務内容に追加しました。



持続可能なサポートシステム

ヘルスケア休暇

日本の労働法では、雇用主に有給の病気休暇や生理休暇を提供する義務はないため、心身の症状があり休暇を必要とする際には年次有給休暇を利用することが一般的です。Spiberでは、法律で定められた以上のものであっても、社員のニーズと利益のバランスの上で社員にとって必要と考えられる支援は、積極的に提供しています。

2023年には、まずは月経のある社員を対象に有給のヘルスケア休暇制度を導入しました。さらに、2024年6月には本制度に関するアンケートを実施し、申請や利用に関する意見を集めました。これにより改善点を明らかにし、社員のウェルビーイング向上に向けたさらなる提言を目指しています。



ヘルスケア休暇に関するSpiber社員からのコメント

「私の業務は主に実験室での作業で、身体的にハードな面もあり、長時間立ちっぱなしになることがよくあります。そんな中、ヘルスケア休暇は私のウェルビーイングを維持するために欠かせない制度となっています。本制度のおかげで、健康を最優先にしながら、仕事に集中できないことに対して罪悪感を感じることなく、自分の健康管理に取り組むことができます。必要なときにしっかり休息を取って回復できるのは、本当に助かります。重い症状が出ていないときでも、ヘルスケア休暇を利用することでホルモンの変化による気分の波をうまくコントロールでき、リフレッシュしてより生産的に仕事に戻ることができます。また、本制度を通じて、自分のニーズをチームに効果的に伝えることができ、月経を経験する人々への理解を深める手助けにもなっていると感じています。」

クンラティダー トンプベート

Biotechnology部門



「私の月経は症状が軽いので、これまでヘルスケア休暇を取得したことはありません。しかし、月経の感じ方は人それぞれで、腹痛や吐き気などの強い不快感を抱え、長時間座っていることさえ難しい方もいます。そうした方々にとって、身体をしっかり休めることができる本制度は、心理的なストレスを軽減し、より効率的に働くための環境を提供するものだと思います。最終的には、会社全体の生産性向上にもつながると考えています。」

何よりも、私たちの会社が「持続可能な人類のウェルビーイング」という理念を実現しようとしていることを、社員として誇りに思い、心から感謝しています。Spiberでは、社会や働き方の既存の規範に疑問を持ちながら、新たな、そして包括的な環境を創出するために日々努力しています。これからも、真に多様性、公平性、包摂のある職場に向けて進んでいく姿を楽しみにしています。」

中島 綾菜

Marketing & Communication部門



Integrity

資源を賢く利用し、企業価値を企業文化や働き方に根付かせることで、私たちの価値を維持する事業を創造できると信じています。

Spiberの素材は、環境負荷を最小限に抑えた活動への取り組み、そして共通の倫理や価値観を持った組織運営に基づいた、責任ある事業によって支えられています。

温室効果ガスの排出とエネルギー

コミットメント

1. 直接的な排出とサプライチェーンからの排出の両方を含む、カーボンフットプリントの測定と開示
2. 2025年、遅くとも2027年を目標に、再生可能エネルギー発電の直接利用や新規設備の建設支援により、使用する電力の100%を再生可能エネルギー由来とする

進捗

2023年から、自社の直接的な業務における温室効果ガス排出量および上流のサプライチェーンからの排出量を測定し、その結果を開示しています。さらに、2024年には中小企業向けのCDP(カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)アンケートに回答を提出しました。

2023年初頭より、タイではiRECsを、日本では非化石証書を購入し、電力使用量の100%を再生可能エネルギーで賄っており、2024年も同取り組みを継続して行なっています。また、タイ政府が新たに導入した「ユーティリティ・グリーン・タリフ」制度が再生可能エネルギーへの投資を促進することを期待しており、将来的には当社がタイで100%新設の再生可能エネルギーを利用できる可能性が高まっています。¹

¹ Spiberでは現在、アンバンドル（環境価値のみの購入）のエネルギー属性証明書を購入しています。（タイではiRECs、日本ではトラッキング付き非化石証書）私たちは、これらのアンバンドルのクレジット使用が温室効果ガス（[参考](#)）の世界的な削減を推進するための直接的な方法ではないことを認識しています。将来的には、よりインパクトのある再生可能エネルギーの供給源を特定し、移行していくことを目標とし、再生可能エネルギーの調達に関する情報を積極的に集めています。



調達

コミットメント

1. 当社の持続可能な調達に関する方針を遵守するサプライヤー数の引き上げ
2. 2023年第2四半期までに、人権インパクトアセスメント(HRIA)によりサプライチェーン内のリスクを特定

進捗

当社の持続可能な調達方針には、96%以上の上流の原材料サプライヤーが賛同し、署名を提出しています。残りのサプライヤーとも引き続き対話を重ね、同様の取り組みへの同意を目指しています。

2024年1月、私たちはタイの上流サプライチェーンを深く理解するため、サトウキビ加工工場とその周辺にある Bonsucro 認証を取得したサトウキビ農場を査察しました。さまざまな規模の農場でのサトウキビの収穫を観察し、発酵プロセスに欠かせない液糖を供給する工場も視察しました。また、この訪問は人権インパクトアセスメントの一環として行われ、農場や工場で働く方々に対する現地インタビューやアンケートも実施しました。これにより、サトウキビの収穫やその後の加工に関する包括的な理解を得ることができ、上流サプライヤーに対する人権インパクトアセスメントを進めるための重要な情報を収集することができました。

さらに、サプライヤーとの関係も一層強化され、持続可能性や社会経済の改善に向けた将来の取り組みの基盤を築くことができました。今後も主要なサプライヤーとの対話を継続し、潜在的な社会的または環境的影響の監視と軽減に重点を置いて参ります。



